三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄３５万人体制」粉砕！

三里塚二期着工阻止 臨調攻撃粉砕 57・11ダイ改阻止

職場から反撃にうって出よう

日刊 動労千葉

82.6.30

No. 1082

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二－八（動力車会館）

（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

第9回 支部代で意志一致（6/28）

6月28日、第9回支部代表表会議が開かれ、今日いよいよ激化する軍事大国化・改憲攻撃の突破口としての三里塚二期着工攻撃と第二臨調＝国鉄労働運動圧殺攻撃に対して、三里塚と国鉄を二大基軸としていよいよ職場からの反撃にうって出る方針を確認した。

一、三〇〇の総決起－団結力は、偉大な勝利をきりひらきつつある ＝総括提起＝

まず関川委員長から「この一ヶ月間ほぼ連続闘争並の全組合員の総決起に敬意を表すると共に、今日全面激化する三里塚二期攻撃と第二臨調攻撃とどう闘いぬいていくのか、充分な討議を深め、闘う体制を築いていってほしい」とのあいさつをうけ、片岡教宣部長から「経過・当面する取り組み」が提起された。

すなわち、動労千葉は、この一ヶ月に主な動員だけでも「5/23反核東京行動300名」・「5/24三里塚現地集会150名」「6/3 6.12デッチ上げ告訴公判闘争150名」「6.5労働者集会組織化のための全支部による10万枚ビラマキ駅頭宣伝行動」「6/5労働者集会400名」「6/15三里塚二期阻止・日米安保粉砕全国総決起集会110名」「6/24右翼労戦統一反対（総評三顧問よびかけ）集会・50名」等々と連続総決起をかちとり、動労千葉の路線の正しさと積極的意欲と組織力の強さをはっきりと示した。

動労千葉のこのあくなき戦闘精神・団結の力が、国鉄当局によるオニマル生＝既得権剥奪攻撃に対しても現場でガップリと四つに組んでわたりあい、同時に動労「本部」革マル・小川建二によるデッチ上げタレコミを口実とした刑事弾圧（6名の仲間への出頭命令攻撃→不当逮捕の企み）を押しとどめ、また三里塚・反戦・反核政治闘争をしっかりと担い切り、三里塚を基軸に闘う労働運動潮流形成をつくりあげてきている。

激動期になればなるほど力強さと真価を発揮する動労千葉の「80年代に通用する自前の労働運動」路線が着実に前進しているといえる。

「三里塚二期着工阻止」「57・11ダイ改阻止」をかかげ、今秋万全の決戦体制をうち固めよう！ ＝情勢＝

内外の危機にはさまれて日本支配者階級は凶暴な軍事大国化・改憲、戦争への総動員体制づくりに雪崩こんでいる。「三里塚二期攻撃」と「臨調攻撃」は、この突破口をなす同根の攻撃である。

5/17、第二臨調第4部会報告が、「職場規律の厳正化」を最大眼目に反動的デマ的報告を発表、更にこれに輪をかけた反動報告＝「国鉄再建経営のための方策要綱」を自民党・三塚委員会が発表（6/18）した。

一方、国鉄当局は、これらの反動的な攻撃を背景にすると同時に、一方の口で「国鉄を守るためには…」との口実をかかげて一方的・先どり的に既得権剥奪を強行すると共に、「第四報告＝緊急措置11項目」を先どり実施する（「給与抑制」と「自動車・工場・病院の分離」の2項目を除いて）、85年度までに、33万人体制にするという新たな合理化計画を発表した。

これに基づく具体的攻撃として出されたのが「57・11ダイヤ改悪」の攻撃であり、6月24日、千鉄局は「管内1,000名（運転関係は約210名）の要員合理化」を伴なう大合理化・「57・11ダイ改」提案を行ってきた。

40万国鉄労働者の最先頭で反撃に起つ ＝具体的方針＝

こうした国鉄労働運動解体攻撃に対し、国労中央は「正すべきは正す」と風服し、動労「本部」に至っては、反労働者的な「働こう運動」の強要をもって、第二臨調の先兵と化し、国鉄労働者に敵対している。

敵が、軍事大国化・改憲をにらんで攻撃をかけてきている以上、闘う側も体制変革へむけた戦略をもって真正面から対決する事、いまだ脈々と生き続ける全国全職場の国鉄労働者の戦闘性に依拠して、大胆にうって出ることである。**具体的は、**

① 津田沼・幕張・佐倉支部をモデル職場として、職場実態の見直しを行い、**全支部での非協力闘争**を実施する。

② **74三里塚現地集会**に全力で結集し、夏～秋、反対同盟解体攻撃＝二期攻撃を許さぬ闘いを更に強化する。

③ **「57・11ダイ改闘争」**は国鉄労働運動の命運を決する闘いとなる。動労千葉は合理化白紙撤回を求め、非妥協の闘争体制を今から準備すると共に、全国全職種的決起の実現にむけ、金ゆる働きかけを行う。

④ そのために**第七回定期大会**を9月下旬、千葉市内で開催し、万全の闘争体制を築く。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！